



牧野省三(中央)とマキノ撮影隊スナップ

マキノ Picture

映画の軌跡

The Makino Picture Story



マキノ舞子(智子)

2008年1月8日[火]—3月30日[日] *月曜日は休室です。

東京国立近代美術館フィルムセンター展示室<7階>

開室時間：午前11時—午後6時30分(入場は午後6時まで)

料金：一般200円(100円)／大学生・シニア70円(40円)／高校生40円(20円)／中学生以下・障害者(付添者は原則1名まで)は無料

料金は常設の「展覧会 映画遺産」の入場料を含みます。()内は20名以上の団体料金です。小・中学生は無料です。

*学生、シニア(65歳以上)、障害者の方はそれぞれ入室の際、証明できるものをご提示ください。

*フィルムセンターの企画上映をご覧になった方は当日に限り、半券のご提示により団体料金が適用されます。

主催：東京国立近代美術館フィルムセンター、立命館大学アート・リサーチセンター

東京国立近代美術館ホームページ：<http://www.momat.go.jp/>

マキノ

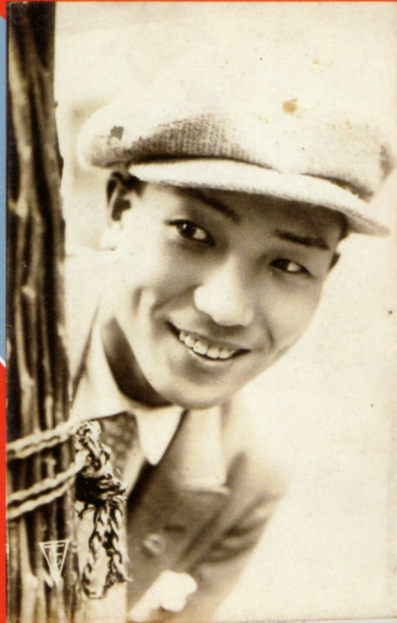
Picture

映画の軌跡

The Makino Picture Story



俳優時代のマキノ正雄(雅広)



月形龍之介



マキノ御室撮影所全景

● テレビドラマ『カッソウ屋一代』ビデオ上映

牧野省三の生涯を綴ったテレビドラマ『カッソウ屋一代』(1967年放映、人間プロダクション制作)全26回のうち、マキノ雅弘(雅広)監督が演出した一部の回を、展示室内でビデオ上映します。
出演:長門裕之(牧野省三役)、南田洋子(省三夫人・知世子役)ほか

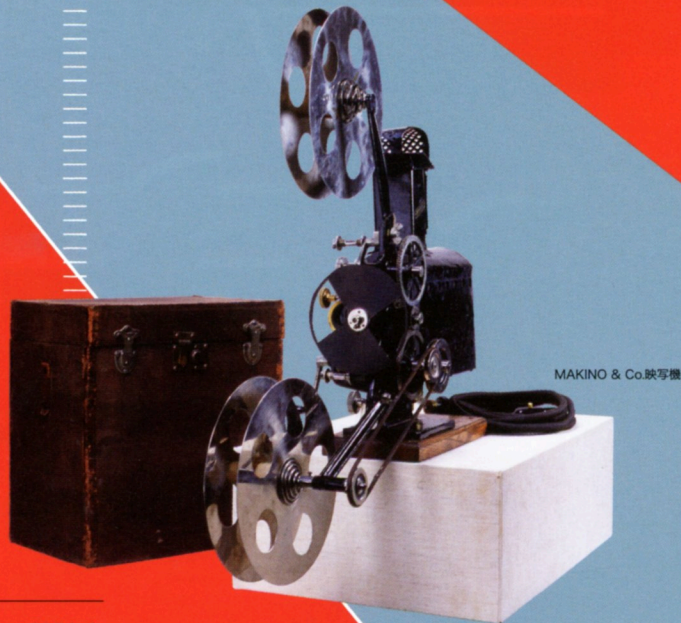
● ギャラリー・トーク

展示期間中、富田美香氏(立命館大学映像学部准教授)、フィルムセンター客員研究員などマキノ映画の専門家によるギャラリー・トークを開催いたします。

*詳細は後日ホームページなどでお知らせいたします。

“日本映画の父”と称された牧野省三(1878~1929)が率い、長男の映画監督マキノ雅広(1908~93)を筆頭に多くのスターや名監督・スタッフを輩出した映画集団“マキノ”は、日本の映画文化の原点ともいえる存在です。牧野省三が1919年に設立した「ミカド商会」に端を発し、その後「牧野教育映画製作所」や「マキノ映画」「マキノプロダクション」といった名称で、京都の洛西地域を拠点に展開した映画の製作活動は、マキノ正博(雅広)が設立したマキノ・トーキーに至るまで、18年間にわたる巨大な軌跡を描きました。大衆芸能の伝統とモダニズムが融合した“マキノ”映画は、京都を日本のハリウッドへと変貌させる原動力となりました。

この度フィルムセンターは、“マキノ”映画の総合研究プロジェクト「マキノ・プロジェクト」を推進する立命館大学アート・リサーチセンター(立命館大学G-COE「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」)との共催により、スチル写真、雑誌、遺品など同センター所蔵の関連資料を中心とする展覧会を開催いたします。昨年、同センターが京都で開催した「京都に咲いた映画文化—マキノ映画の魅力—」の展示品に、両主催者などの所蔵する関連資料を加えて、日本のエンタテインメントの歴史に燦然と輝く“マキノ”映画の系譜を紹介します。大ホールでの上映企画「生誕百年 映画監督 マキノ雅広」とともにお楽しみください。



MAKINO & Co. 映写機

関連企画(映画上映)

生誕百年 映画監督 **マキノ雅広**
2008年1月5日[土]—3月30日[日]
フィルムセンター大ホール [2階]

NFC
東京国立近代美術館フィルムセンター
National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo



〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6
お問い合わせ: ハローダイヤル 03-5777-8600
東京国立近代美術館ホームページ <http://www.momat.go.jp/>

▼ 交通

東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

